

## 新入会員の感想

宇佐美 繁

農基法以降の“近代化”農政の破綻が誰の目にも覆い難い情況になつてから、ムラ、集落は突如復権した。減反も農用地利用増進事業という名の下に進められる借地関係の推進もムラにまかしておこう“すべて黄金と化す”かの如くである。官私あげてムラ論が展開されている最中に、「村落社会研究会」たるもの恒間見させてもらおうとノコノコ出かけていった小生もまた、その尻馬に乗ろうとしている一人である。

幕末の尊徳、明治の理紀之助からはじまつて昭和戦前期の農村更生運動、今日の米の生産調整に至る過程が、一つのテーマの下で、それぞれ連関させながら展開される課題報告へ接して、テーマ設定のスケールの大きさと報告者諸兄の博学ぶりに圧倒され、併せて、

そうした設定を可能とさせる“ムラ”それ自体の“超歴史性”を思  
い知らされた。日本農村の封建的なものを深部で規定するものと  
され、戦後の一時期には右も左も挙げてその撲滅のために論陣をはり、  
結合の物質的基礎を崩壊させてきたはずのムラを、今再び上下問わ  
ず再生の必要性を説くとすれば、ムラほど偉大なるものはない、と  
いうことになるのだろうか。でもそのことと、“農村計画”“農村  
自治”的運動が、例外なしに権力の望ましい方向にねじまげられて  
きた、という大会参加者の共通した（と思われる）認識、あるいは、  
そうなる根源に“農民が一貫して単なる業主であって個を確立して  
いない”（佐々木報告）という、前近代的な農民像を置くとき、評価  
されるムラと、ムラの主体であるはずの村民との関係はどのように  
考えたらいいのだろうか。もし今日でもムラ、集落に、何か評価さ  
れるものがあるとすれば、それこそ農民がいわゆる“近代的”でな  
いところにこそあるのであって、西欧的な意味とは幾分性格を異に  
する“集団の中での個の位置づけ”がムラ社会の中にはあった、ある  
いはあると信じているからではないだろうか、と思つたりした。

参加して質問してみたいこともいくつかあった。農村自治あるいは地域農業の発展の道は、きわめて狭められた枠の中で考えるしか  
ない、という共通性の中で、特認事業を認めさせて枠組を広げてい  
くムラもある、と評価するとき、すでにそうした実践を第一次農業  
構造改善事業の実施期に行なってきたムラや農協の今日の姿をどのように評価されて報告されているのか。初めてのことではないことを評価  
するときは、以前の実践との共通性と異質性を明らかにしてほしい

と思った。あるいは、作物の編成でなく土地編成こそが課題である、  
というとき、作るべき作物の多くを農民から収奪してしまったながら、  
農地の流動化だけを叫ぶ今日の構造政策との違いはどこに求めたら  
いいのか、あるいは国家なんかクソクラエという農民の出現を待望  
し「吉里吉里国」に感銘をうけるとすれば、あのような主張が何故  
小説家井上やすしによって“体系的”に行なわれ、村落構造を研  
究している研究者や、農民自身からは出でこないのか、等々。

泊り込みの研究会、というスタイルも“学会”的範囲では初体験  
であったし、参加者相互の関係も“ヒューラルヒューシー”ではなく、  
“農村的民主主義”があるよう見えた。そういう研究会へ長く身  
を置くことが出来た方々をうらやましくさえ思った。でも気になるこ  
ともあつた。大会で発言している方々が、初参加の小生でさえもよ  
く知っている人（著書をつうじて、あるいは別な機会に）ばかりで  
あつたことである。勘ぐるに、村研もまた、戦後民主主義のよき時  
代を満喫した人々の集団なのかも知れない。その人々は我々下々の  
民との関係も気さくであつて、決してエラぶつたりしない共通性を  
持つてゐる。それが村研のフラットな関係の最大の基礎であるよう  
に思う。その上、みんなよく勉強・研究をされていて、先駆の学説  
にも精通しており、議論も一定の共通の基盤の上で行えるだけの力  
量をもつてゐる。それが、自由活達な討論を可能とさせているので  
あろう。しかし結じて“後継者”的育成にはある種のためらいをも  
つてゐるようにも見える。徒弟制的、講座制的枠組の中でつくられ  
てくる“後継者”とは、別なあり方を模索しながら、それが未だ結

実してこないいらただしさが、今日の村研の討論の中にもあらわれていたようにも思える。それは今日の農村社会にも共通した問題のようでもあり、一つの“社会学”的な課題でもあるだろう。

戦後民主主義を、'ファシズムとの対比の中で認識しえた世代と、民主主義、物質的な豊かさを空氣のような存在として感じることの出来ない世代とが、それぞれの立場から克服していくかねばならない大きな問題領域が、そこに存在するように思えた。